



# 市内の戦争にまつわる出来事

市内でも、戦争にまつわるつらく悲しい出来事が起こりました。これら悲劇が風化することのないよう、平和の尊さと共に次の世代に語り継いでいけませんか。

■問合せ…多文化共生課(☎025-520-5681)

## 直江津捕虜収容所

太平洋戦争中の昭和17年、現在の川原町に「直江津捕虜収容所」が開設されました。開設後まもなく収容された300人のオーストラリア兵は、厳しい寒さと過酷な労働環境、飢えなどにより、60人が亡くなりました。

その後さらにイギリス、アメリカ、オランダなどの捕虜を加え、収容された捕虜は700人に上りました。終戦後、当時の収容所職員15人が裁判でその責任を問われ、うち8人が悲痛な遺書を残して処刑されるという、痛ましい出来事が起こりました。

昭和53年、元オーストラリア兵士から届いた一通の手紙がきっかけで市民との交流が始まり、終戦から50年が経過した平成7年に、世界平和と友好を願う場所にしようと、市民と市が協力して「平和記念公園」が完成しました。



平和記念公園「平和友好像」

## 直江津空襲

昭和20年5月5日午前11時過ぎ、アメリカのB29爆撃機が直江津の工場地帯を標的に爆弾を投下しました。爆弾は工場には命中せず、近くの水田や倉庫に落ちました。この爆撃により水田で農作業中だった人や黒井駅近くで作業していた人など3人が亡くなり、5人の負傷者を出しました。

この空襲は、県内で初めて被害を出した爆撃であったにもかかわらず、当時の政府の情報統制により、翌日の新聞では、「被害は皆無であった」と報道されました。

空襲から35年がたった昭和55年に三ツ屋地内で、さらに時を経て平成6年と18年に安江地内で、それぞれ不発弾が見つかり、自衛隊によって処理されました。

被弾の地となった黒井公園には、慰霊碑が建てられ、毎年5月5日に「直江津空襲と平和を考える会」による慰霊の集会が行われています。



黒井公園内に建つ慰霊碑

## 名立機雷爆発事件

国道8号脇の名立漁港に、小さなお地蔵さんと石碑が祀られています。

終戦からしばらくたった昭和24年3月30日午後4時頃、名立小泊の海岸に国籍不明の機雷が流れ着き、その様子を見ようと住民や子どもたちが、堤防に大勢集まりました。警察官が機雷を沖へ押し出そうと海へ飛び込んだ直後の午後5時23分、波で大岩に接触した機雷が、大きな音とともに爆発しました。この爆発で、小・中学生と幼児56人を含む63人ものが亡くなりました。その遺体は、着ていた衣服でしか見分けることができないこともあったそうです。

この事件を風化させることなく平和を守ることの大切さを伝えるため、毎年3月に「名立・平和を願う日」記念事業が開催されています。



地蔵尊と爆発の地を示す石碑

## 戦争体験談から、「平和」について考えてみませんか

市では、市民の皆さんから戦争体験談を募集し、収集した体験談をまとめた「戦争体験談集」を販売(1冊500円)しているほか、市ホームページにも掲載しています。市公式YouTubeチャンネルでは、市内在住の戦争体験者による証言動画も公開していますので、ぜひご覧ください。



戦争体験談集



市公式YouTube